



結果はベル三段の惜敗でした。オーストラリアの三段は日本の五段に相当すると昨年までは、五段に格付けしていたのですが、今回は三段に下げたので白も楽ではなかったと思われます。終局後、根橋主将は、ベル会長は日本なら五段以上で通用するでしょうと評価していました。

チーム対抗の過去9年間の戦績は、慶応側の負けはなく、2005年に引き分けが一回あるだけであり、今回ブリズベンからわざわざ持ってきてくださったベル会長杯にこの実績が正確に刻してあります。今回の結果についてはこれからプレートに加彫することになります。それでも、今回の引き分けという成績に、ブリズベン側は満足気でした。

午後6時から表彰式に入り、ブリズベンベル会長杯と三田団長賞のワインを両チーム主将が仲良く受けとり、ブリズベンが用意したマカデミアナッツと、金澤幹事が用意した有田焼きとが個人賞として選手全員に贈呈されました。



ベル杯は両チームに贈呈、有田焼を手にして喜びのベル会長とハーディーさん

そして、直ちに、根橋主将の音頭で乾杯を行い、歓迎夕食パーティーをスタートしましたが、このパーティーにはこれまでの九回のツアーに参加した高尾夫妻、細野元棋院海外担当ほか多数の方々が駆けつけ、30名近い参加者で会を盛りあげ、時間が立つのを忘れるほどでした。



懇親パーティーの様

午後8時に至り、会は囲碁三田会山下会長の洒脱な閉会の辞でお開きになりました。このような意義深い国際交流ができるようになったのも当初日本棋院からブリズベン囲碁クラブをご紹介をいただいたおかげであり、一同感謝しております。会がお開きになってからも、オーストラリアからのゲストたちはまだまだ「飲み足らず!」「打ち足らず!」という表情であり、三田会側の有志が残って三田倶楽部の閉店時間までお付き合いをしました。お相手を努めた澤口九段格、金澤六段も碁の方は何とかしのいだのですが、アルコールには相当参っ

たらしいです。そして、散会后、さらに驚いたことにオーストラリア側は、彼らだけで銀座に繰り出して二軒も梯子をして飲み続け、ホテル帰館は1時過ぎであったと翌日箱根観光のとき聞かされました。オーストラリア人は身体も大きいですが、胃も肝臓も丈夫らしいと再確認したことでした。